

水陸萬頃

第12号

奥州農業改良普及センター TEL: 0197-35-6741 FAX: 0197-35-6303
 いわてアグリベンチャーネット <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>



※水陸萬頃とは

「続日本書記」によると、胆江地域は「水と土地が豊かなところ＝水陸萬頃」と記されている。

『頑張る新人を紹介します』

(新規就農者や新米農業者、若手農業者グループが奮闘する姿を紹介するコーナーです。)

たかはしちずこ

高橋千鶴子さん(奥州市胆沢)「次代につなぐ食文化」

今年度、新たに岩手県食の匠に認定された、高橋千鶴子さん(認定料理:くるみ豆腐)を紹介します。

「食の匠」とは、永年受け継がれてきた地域の食文化や郷土料理等に関する知識・技術を受け継ぎ、その情報を次代への伝承ができる方を認定する県の制度です。平成8年からスタートし、これまでに延べ290件が認定されています。

高橋さんが食の匠を志したきっかけは、これまで「くるみ豆腐」の伝承に取り組んできた食の匠が高齢になり、活動が難しくなってきたことから、同料理のいわれや技術を引継ぎ、郷土料理の伝承活動と情報発信活動に取り組みたいと思ったからだそうです。

高橋さんは奥州市江刺藤里の出身で、幼い頃から地域の人たちが冠婚葬祭等の際に「くるみ豆腐」を作る場面に触れながら育ちました。その後、結婚を契機に奥州市胆沢に移り住み、夫とともにピーマン栽培に取り組んでいました。農業に従事するなかで、地域の食文化に対する関心が高まり、料理講習会等に積極的に参加するなど料理の技術を磨いてきました。また、野菜ソムリエの資格取得を契機に、食育にも活動の幅を広げています。

申請の準備段階では、すでにくるみ豆腐で認定となっている食の匠の調理工程を見学し、その後、高橋さんの調理方法についてアドバイスをもらいました。また、県の選考委員会での助言により、再度先輩匠とともに、郷土料理の論文も参考にしながら、分量や練り上げる時間について調整を行い、試行錯誤を重ねました…。

このような過程を経て、去る12月23日(金)、岩手県食の匠認定証書交付式が行われ、無事に認定となりました!今年度は県全体で6名が新たに認定となり、高橋さんが代表して抱負を述べました。

今後は、地域の子ども達や、若い世代への食の伝承活動を行うと共に、地域内外に向けての発信活動を積極的に努め、地域の活性化に尽力したいと意気込む高橋さん。今後ますますの活躍が期待されます!



受賞者・認定者紹介

岩手県農林水産振興協議会長表彰

株式会社プラウズ（奥州市） （明日を拓く担い手賞）

株式会社プラウズ（代表取締役 菊地信吾）は、ねぎ3ha、水稻10ha、大豆17haを栽培し、特に、ねぎ栽培では地域でも数少ない中核的な経営体です。営農開始時から周年雇用できる品目としてねぎを選択し、令和2年の法人化後も着実に栽培面積を拡大しています。

積極的な機械導入や、作業場等の整理整頓を通じて「働きやすい職場作り」に取り組み、雇用者の確保や研修生の育成に努めています。

よこみちファーム株式会社（金ケ崎町） （活力とうるおいにあふれた「村づくり」賞）

よこみちファーム株式会社（代表取締役 小原伸一）は、地域農業の持続的発展を目的に平成26年に設立、水稻のほかミニトマトやたまねぎ等を栽培しています。構成員である地区内の女性や高齢者等に作業委託し、生産した野菜を原料に、地域の女性組織へキムチ等の加工品製造を委託しています。また、簡易ほ場整備により水管理や草刈りの作業効率化を図るほか、冬期の除雪作業受託、史跡の草刈り作業、高齢者施設の生垣整備など、地域に農業のある暮らしと働く場を提供しています。



胆江地方農業青年奨励賞

熊谷翼（奥州市） くまがいたすく

熊谷さんは、平成25年に親元就農し、令和2年の(農)熊谷畜産設立後は、理事として経営に参画しています。本人は、肥育100頭、繁殖50頭、牧草13.9ha、水稻1.1haを担当しています。

ブラッシングやこまめな敷料交換など、牛のストレス軽減に努め、繁殖効率が低下しないよう注意を払っています。また、粗飼料の多くを自給して飼料価格高騰に対応しています。全国和牛能力共進会に肥育牛を出品する等、優秀な肥育技術を持ち、地域の若手畜産農家のリーダー的存在です。



佐々木琢也（奥州市） ささきたくや

佐々木さんは、平成29年に就農し、和牛繁殖経営をはじめました。

現在は、繁殖牛21頭、育成牛3頭、牧草2.0haで経営しています。衛生管理には特に気を配っており、牛舎全体に換気用ファンを設置し、暑熱対策を実施。また、全ての開口部にネットを設置してアブなど吸血昆虫の侵入を防止しつつ、全頭へのワクチン接種により子牛の下痢対策に取り組み、こまめな観察で異常牛の早期発見に繋がっています。地域の若手畜産農家と共に、積極的な情報交換を通じて地域の肉用牛振興に取り組んでいます。



令和4年度岩手県農業農村指導士認定

藤田栄貴（奥州市） ふじたえいき

藤田さんは、水稻41ha、大豆7.4ha、転作牧草4.6ha等の大規模土地利用型経営体です。

水稻の乾田直播栽培技術を研究機関と協働で確立し、その高い技術で水稻栽培技術の幅を広げ、作期、品種、販売先などバランスを重視した安定経営が特徴です。

今後は農業農村指導士として、地域農業の発展や後継者育成に取り組みたいとのことです。



御意見番！指導士の声



農業農村農業士
たかはし やすし
高橋 康さん

金ケ崎で、水稻をメインで大豆・野菜の栽培をしています。
水稻・大豆・野菜の栽培には有機質肥料や土壌改良剤による土づくりをしての栽培に取り組んでいます。

肥料・資材の価格高騰により有機質肥料が見直されています。土づくりは単年度での効果は期待できないので数年をかけて土づくりし、安定した農産物の収量、病害・害虫が少ない水稻・大豆・野菜の栽培に取り組んでいます。

肥料・資材の価格高騰により、農業経営はとても厳しい状況ですが、農業経営の中で心身の健康を保ち、安定したパフォーマンスを発揮することで労働生産性は上がると思います。

これからも農業経営をする中で、健康を保ち、土づくりをしながら農業を継続していきたいと思っています。

各作物の肥料高騰対策について

🍷 水稻

土壤診断結果を参考に、リン酸とカリ肥料の施用量を減らしましょう。また、窒素肥料は散布後すぐに耕起（水尻は閉める）または入水をすることで窒素の溶脱を低減できます。

🍲 大豆

牛ふん堆肥1トンには、おおよそリン酸4kg、カリ6kgが含まれるので、堆肥の施用量に応じて肥料成分を補うことができます。田畑輪換による地力低下を防ぐためにも堆肥等の有機物の施用が重要です。

🍎 野菜、🍎 果樹、🌸 花き

土壤診断に基づく適切な施肥を行うことで、無駄な施肥を抑え、肥料費を削減しましょう。土壤養分の過不足があると、基準通りの施肥では生育不良や収量低下となる場合や、病害虫の発生助長や品質低下を招く場合があるので、適切な施肥が重要です。

🐄 畜産

化学肥料と堆肥をそれぞれ“効果的に”“タイミングよく”使うことが大切です！
1番草の収量を確保するポイントは「速効性の窒素を可能な限り早い時期に投入すること」です。よって、早春施肥は、化学肥料をしっかりと使いましょう。
一方で、春の堆肥散布は、サイレージへの堆肥混入による不良発酵のリスクが高まります。堆肥は、各番草収穫後、または初冬季に散布することをおすすめします。

1～3月のワンポイントアドバイス

🍎 りんご [冬期せん定のポイント]

令和4年度は、病害虫の多発や、着色不良の園地が見られました。わい性樹のせん定は①脚立が入りやすくスピードスプレーヤの進路が確保されるなど、栽培管理がしやすいこと、②樹冠全体に日光、薬液量が十分到達することを念頭に行いましょう。成木の整枝せん定は間引きせん定が基本ですが、間引く枝が大きい場合には、その基部側の枝から順次せん除し、数年かけて間引く方が良いでしょう。成り枝は、更新枝を育てておき、側枝に対して大きくなりすぎる前に間引きます。



大雪への備えは早めに

一昨年の冬は、大雪によりハウスが倒壊するなどの大きな被害が発生し、施設園芸や水稻育苗等に大きな影響がありました。大雪への備えは降雪前の準備が重要です。天気予報をこまめに確認し、降雪前に被害の軽減対策を講じましょう。



【施設野菜、水稻育苗等パイプハウス】

- ・降雪前に、被覆資材の破損部の補修し、筋交いや中柱等で補強を行います。
- ・降雪が予想される場合は、事前に暖房や、暖房機がない場合は密閉し、室内温を上昇させ積雪の自然落下を促進しましょう。
- ・降雪時はハウス側面の早めの除雪を心がけますが、ハウス倒壊等に注意し作業しましょう。
- ・施設園芸では万が一に備えて園芸施設共済への加入も検討しましょう。

【果樹】

- ・降雪前に幼木は支柱を立てて結束、普通樹の成木は大枝に予め支柱を立て、雪害を受けそうな枝は粗せん定を行いましょ。う。
- ・降雪後、枝が雪に埋まった場合は掘り出し、枝上の雪は固まる前におろしましょう。

胆江地方ニューファーマー大募集！

胆江地方農林業振興協議会では、主要品目（ピーマン、きゅうり、トマト、りんどう、りんご、水稻、肉用牛、酪農）で新たに就農を希望する方を募集し、「胆江地方ニューファーマー」として重点的に応援します。

お近くに就農を考えている方がいましたら、是非普及センターまでお知らせください！

- ・ 毎月第2木曜日は就農相談窓口の日として、関係機関で相談に応じていますので、就農希望者の方がいましたら、お声がけください。
- ・ 新規就農者向けの研修会等の情報をお知らせするため、今年度に就農した方の情報も集めています。お近くで就農した方など情報がありましたら、教えて頂けると幸いです。



明子の部屋 ～佐藤所長のつぶやき～

昨年は、コロナ禍やウクライナ侵攻、物価高騰など全国的に閉塞感が漂う日が続きました。農業においても長雨の影響等で生育が不安定で、品質に影響が出た上、例年より収量が少なく、がっかりされた方も多かったことと思います。

しかし、依然として就農希望の相談は多く寄せられており、それに伴って新規就農者も安定的に確保できています。県では、市町と連携して「人口減少対策」を最優先で取り組むこととしています。特に令和5年度からは、男女ともに活躍できる環境づくりを進め、ライフステージに応じた支援や移住・定住施策を強化することとしていますので、こういった支援策も活用しながら、新規就農者をさらに確保できればと期待しているところです。

また、飼料高騰対策として水稻ホールクロップサイレージ専用品種の栽培を農業農村指導士と協働で行ったところ、従来品種より2割程収量が多い上、倒れにくく、牛の嗜好性も良好という、とても良い結果が得られました。今後も多くの業務パートナーの皆様と連携しながら、地域課題の解決に取り組んでいきます。（明子）